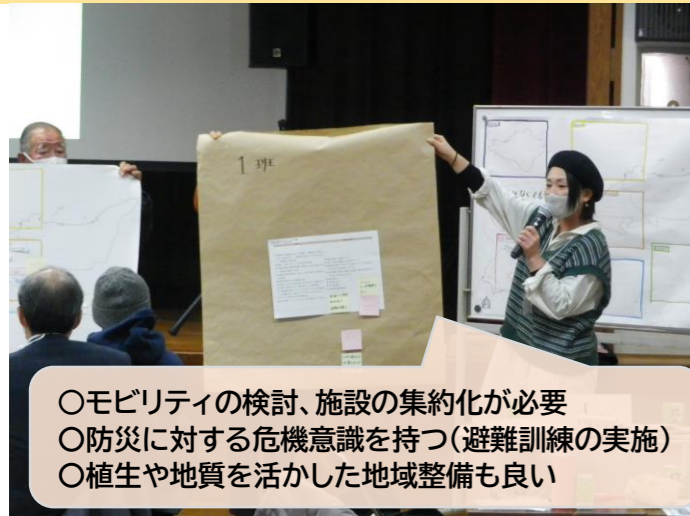


まとめ・発表

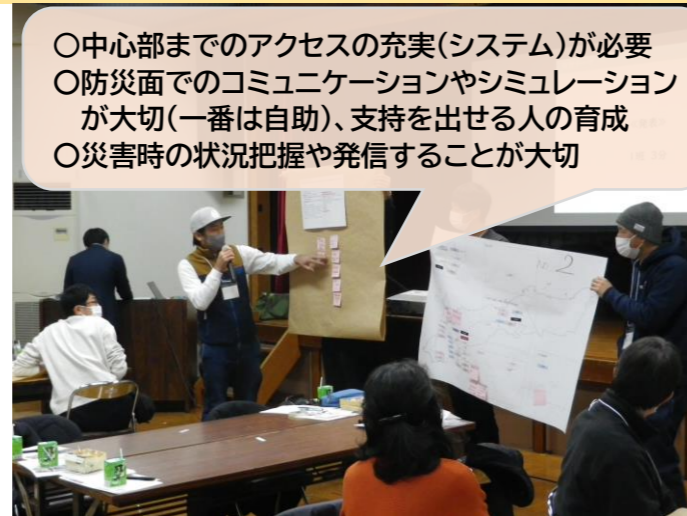
ワークショップの最後に、皆さんが当日検討した内容をグループごとに発表しました。

1班



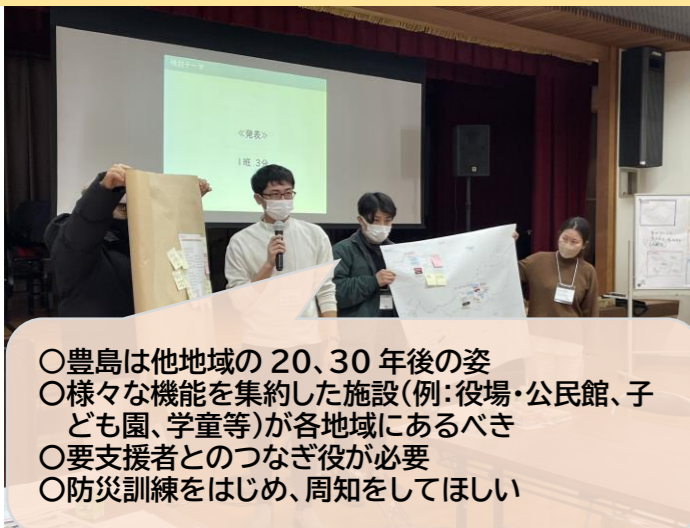
- モビリティの検討、施設の集約化が必要
- 防災に対する危機意識を持つ(避難訓練の実施)
- 植生や地質を活かした地域整備も良い

2班



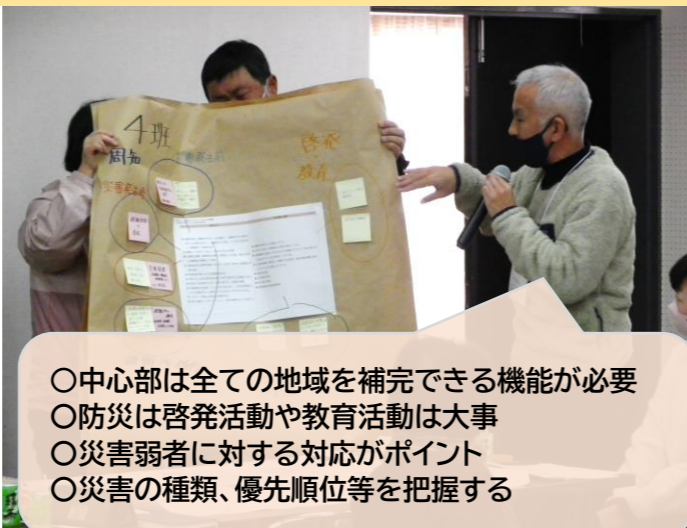
- 中心部までのアクセスの充実(システム)が必要
- 防災面でのコミュニケーションやシミュレーションが大切(一番は自助)、支持を出せる人の育成
- 災害時の状況把握や発信することが大切

3班



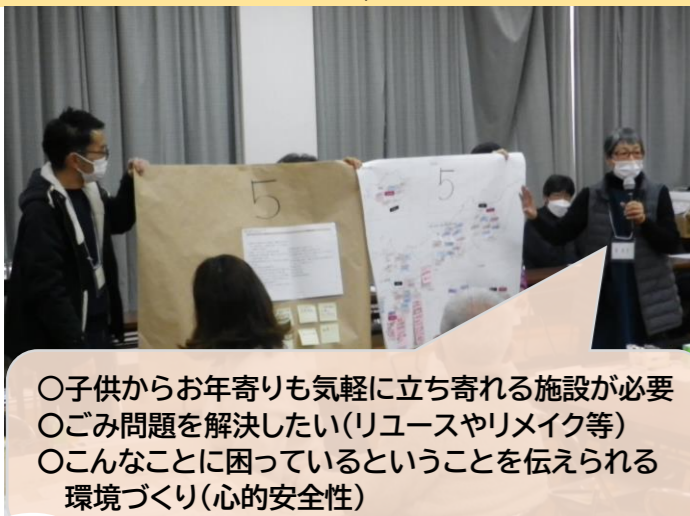
- 豊島は他地域の20、30年後の姿
- 様々な機能を集約した施設(例:役場・公民館、子ども園、学童等)が各地域にあるべき
- 要支援者とのつなぎ役が必要
- 防災訓練をはじめ、周知をしてほしい

4班



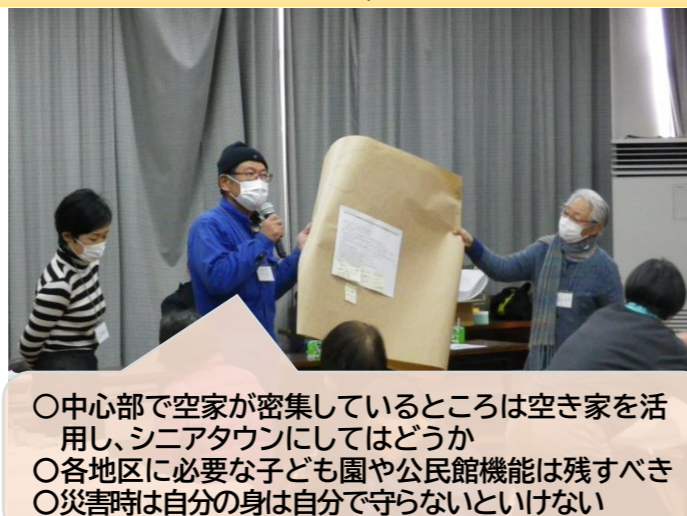
- 中心部は全ての地域を補完できる機能が必要
- 防災は啓発活動や教育活動は大事
- 災害弱者に対する対応がポイント
- 災害の種類、優先順位等を把握する

5班



- 子供からお年寄りも気軽に立ち寄れる施設が必要
- ごみ問題を解決したい(リユースやリメイク等)
- こんなことに困っているということを伝えられる環境づくり(心的安全性)

6班



- 中心部で空家が密集しているところは空き家を活用し、シニアタウンにしてはどうか
- 各地区に必要な子ども園や公民館機能は残すべき
- 災害時は自分の身は自分で守らないといけない

2023年1月
No. 03

土庄町役場 建設課
TEL:0879-62-7006
FAX:0879-62-2400

土庄町まちづくり ワークショップニュース



第2回の結果を踏まえて、必要となる都市機能や防災対策について検討しました!

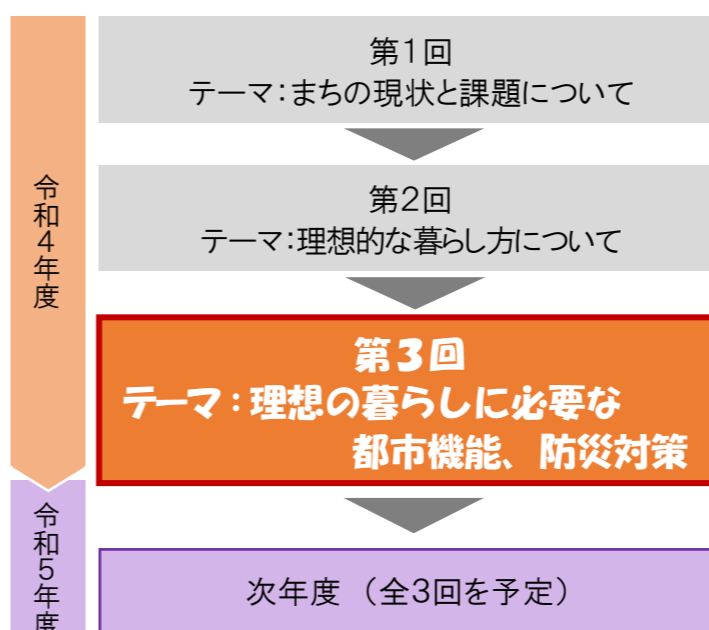
土庄町は現在、少子高齢化、人口減少、経済の停滞、厳しい財政状況などに直面するとともに、学校等跡地の利活用や災害対策等を含めた持続可能なまちづくりの実現を求められています。

そのような中で、昨年度、策定した「土庄町都市計画マスタープラン」で示す基本的な方針に実効性を与えることができ、また規制と誘導措置によって、持続可能なまちづくりの実現を目指そうとする、『立地適正化計画』を今年度から2か年かけて検討することとなりました。

令和5年1月29日に第3回目の土庄町まちづくりワークショップを開催しました。今回は、『理想の暮らしに必要な機能、防災対策』をテーマに検討を行いました。

検討するにあたって、これまでのWSの結果を振り返り、各テーマに沿って、グループごとに検討を行いました。

ワークショップの予定(全6回)



～当日のプログラム～

1. 開会
2. これまでのWSの振り返り
3. ワークショップ(以下、検討テーマ)
 - ・都市機能の整理
 - ・中心部での理想の暮らし方
 - ・防災・減災の取り組み
 - ・理想的な暮らし方の方向性について
 - ・グループ発表
4. 閉会

次回

中間報告会について

2023/3/19(日) 10:00~11:00

- ワークショップで皆さんからいただいた意向や各種会議で検討した内容等を踏まえて、現時点で整理した「立地適正化計画」の検討の途中経過をお伝えする場です。皆さんご参加ください

3回目は「理想の暮らしに必要な都市機能、防災対策について」をテーマに、話し合いました！

都市機能の整理、中心部の理想の暮らし方について

第2回目のワークショップにおいて、「身近に必要なと思う施設」を検討していただきましたが、今回はその施設（機能）が地域・地区のどこに必要なかについて検討しました。土庄町内はもちろんのこと、小豆島町や高松市、岡山県など、広域的な視点での機能の在り方についても検討いただきました。

各施設を印字したカードを地図に張り付けていく方法で作業行いました。全班の結果をまとめたものが以下になります。 ※表内の数値は必要だと思う施設を選択した班の数になります。

機能	医療機能		福祉機能		行政機能	コミュニティ機能		教育機能			警察 消防	商業機能				娯楽機能	金融機能	観光機能	主な意見(抜粋)						
	病院(総合病院)	クリニック・診療所	薬局・ドラッグストア	社会福祉施設	高齢者の集合住宅・老人ホーム	役場	自治会館	公民館・集会所	文化ホール	学校(小中高)	子ども園・児童館	図書館	スポーツ施設(ジムなど)運動施設	警察・消防署	生協・スーパー	商店・小売店	産直所	コンビニ		飲食店	ホームセンター	娯楽施設(飲み屋等)	郵便局、銀行	宿泊施設、観光施設	
エリア																									
土庄町	土庄・洲崎地区	1	5	3	5	6	6	4	4	4	5	5	6	5	6	4	4	2	4	5	5	5	5	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての機能を補完できる中心部(中心部以外へのサポート) ● 本町をシニアタウンに！(空き家リフォームして集合住宅、ケアを充実させる、めいろうの町をシニアカー天国に、空き地を高齢者に開放する(たき火もOKにする)) 等
	大部・北浦・大鐸・四海・戸形地区	1	5	3	5	6	6	4	4	4	5	5	6	5	6	4	4	2	4	5	5	5	5	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の複合化 ● 郊外への交通アクセス、移動販売等のサービス 等
	豊島地区	0	6	2	3	6	1	3	5	1	5	3	2	0	4	1	4	2	1	3	0	0	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の複合化 ● 通販、配送業者 等
小豆島町	5	0	2	0	3	1	1	1	2	3	1	2	0	3	1	0	0	1	1	1	1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心部の各施設への歩行者アクセスルートの整備と、災害時避難ルートの整備を同時に行う 	
高松市	6	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	—	
岡山県	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	

2回目のワークショップで皆さんから出された「身近に必要なと思う施設」



主な意見(抜粋)

防災・減災の取り組みについて

立地適正化計画において、防災指針を位置づける関係から、第2回目のワークショップにおいて、「防災に関する困りごととその対応や対策について」意見を出していただきました。

結果をみると、困りごとの対応策として、地域で解決していく(共助)意見が多かったことから、今回は、公助の視点で行政に協力してほしいことを追加してもらう趣旨で意見交換を行いました。



カテゴリ	主な意見	
災害発生前	○避難に対する意識を変える、避難所の確認・共有	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人がもっと危機感をもつ ⇒住民1人1人に危機感がない。(想像が出来ない。意識を変える。) ・各地区でハザードマップが必要なように、福祉支援が必要な人(要介護者)の福祉マップを作る。 ・住居まわりの避難所・避難先を家族と共有 ・自治防災の情報の更新 ・避難経路の看板や避難しやすい道の確保 → 通りやすい道の整備(住み分け)⇒歩行者、自転車、高齢者一車 等
	○日頃の助け合い、コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・防災だけでなく日頃の助け合い(個人でも準備) ・安心して「困りごと」を言える関係づくり(自治会で対応) ・支援者⇄要支援者申請 ⇒ つなぐ共助が必要 ・消防団協力(日頃のコミュニケーション)
	○避難訓練、防災教育・啓発等の実施(定期的実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震を想定した町全体で避難訓練の実施！ ・小さい集落での避難先・方法を考える ・近所の人々と避難シミュレーションの実施 ・防災イベントの実施(防災グッズの使用講習会、被災者の体験談)
	○避難所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高潮や南海トラフの津波の災害が発生した際、避難先として、高台にあるホテルと契約しておく。(オリビアン、かいる) ・避難所の確保(旧学校・旅館・古民家)の利用 ・物資確認、非常食・医療品を備蓄する(公民館にポータブル発電機、炊き出し機能等)
災害発生時	○緊急時の対応、避難が難しい人への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・障害高齢者の避難支援(現状把握) ・災害弱者(高齢者、障害者疾病者など)への対応(個人情報共有して助けられるように(特に高齢者・障害者)) ・緊急時に近所の人に緊急の準備をしてもらう
	○システム機能	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に消防や役場が現状を把握するためのドローンを配置する(オペレータを含む) ・各自治会の回覧板のシステムを利用して、安否の確認ができるような小単位のシステムを作るとよい ・支援システムの構築(災害ボランティアへの役場職員や住民の派遣による「想定外」に対する経験蓄積も有効) 等